



ASIS インターナショナル日本支部
広報担当理事 長瀬 泰郎



ASIS インターナショナル日本支部便り

月次セミナー 4 月度 「今更聞けないセキュリティの基本」

4 月の月次セミナーは、本誌「愛しのアクセスコントロール」記事でおなじみのビデオテクニカ株式会社代表取締役社長 住谷 健氏。題して、「今更聞けないセキュリティの基本」です。



講演する住谷 健氏

学生時代は剣道部で活躍し、体育会のノリで外国の人々と体当たりで接して英語を学んだという住谷さんは、海外のセキュリティ事情に精通し、深い見識をお持ちです。今回は、改めてセキュリティの基本を語るとともに、海外と日本のセキュリティ産業トレンドを紹介してくれました。以下はその概要です。

■ 運用に力を注ぐことが大事

一般に、守るべき企業資産は「人」、「物」、「お金」と言われますが、昨今では「信用と信頼」も重要な課題となりました。住谷さんは、企業はこれら資産が危険に遭う確率を減らすと同時に、何か問題が起きたら、原因を追究して再発を防ぎ、損害を最小限に留めることが重要だと言います。このためには、「証拠を残す」こと、「運用に力を注ぐ」ことが大切です。しかし、現実には、

① 禁止事項を破ってもおとがめなし

② 異常が発生しても誰も飛んでこない

③ カードを紛失しても直ぐに届けない

など、運用管理が正しく働いていないケースが目立ちます。

出入管理における正しい運用管理について考えると、「カードを読ませてOKの場合、扉を開けて入室又は退室動作を一人で行う、テールゲーティングさせない」こと、入室許可権限の承認過程を整備し、入退室記録の保存期間を明確に定めておくことなどが挙げられます。

大切なのは、「セキュリティポリシーを決定し、遵守を徹底させる」ことから始めることです。次の4つを網羅したポリシーなければなりません。

① 何が財産か定義し、どれだけ重要で、損失が出たらどの程度の影響があるか、を評価して対策の優先順位を決める

② どのように守るかを定める際、その費用対効果を考える

③ 誰がどの様に管理・運用するのか、何人で運用するのか、警報時の対応はどのようにするかなどを決める

④ 事故・事件があった時、証拠の提出方法をどうするかなどについて決めておく

■ 機械の進歩を積極的に利用すること

セキュリティポリシー策定と並んで重要なことは、これの実行を人間系だけに委ねるのではなく、技術や機械の進歩をよく見極めて機械を積極的に利用することです。

最近の進歩の例をいくつか紹介しましょう。

- ① VHS テープを使うタイムラプス VTR 時代は、3 連休以上の連休の場合、テープ交換のため会社に出る必要があったが、大容量のハードディスクを使う DVR になってテープ交換が不要になったので出社の必要もなくなった。



セミナーの様子

- ② 監視カメラの映像が高解像度になったので今まで見えなかった顔がはっきり映り、本人確認が出来るようになった。
- ③ アクセスコントロールの ID カードが非接触タイプになり、これまでの磁気カードに比べてカード毎の個体差やリーダー毎の個体差を気にする必要がなくなった。同時に機器メンテナンスのコストと運用コストが下がった。

■ 日本の産業セキュリティについて

日本のセキュリティ産業を横断的に見ると、現状が浮き彫りになります。一つは、「セキュリティのプロが少ない為に、相談出来る人・会社が分からない。機械のプロはいても、運用まで分かるプロが少ない」ことです。もう一つは、ある程度の規模のセキュリティシステムを構築する場合「セキュリティ・インテグレーターの存在が十分知られておらず、請負会社の規模などで受注が決まることが多い。一方、運用やメンテナンスは、別会社が担当するケースが多い」ことです。

■ ワールドマーケットにおけるセキュリティ技術のトレンド

- ① アナログからデジタルネットワークに移行していく監視カメラシステム
既存の CCTV システムは TV スタandard に沿ったアナログシステムであるため、機器の互換

性は確保されているものの、画質や圧縮などで限界がきています。監視カメラシステムのデジタル化にともなって、アクセスコントロールシステムとの統合も進んでいくでしょう。

- ② 受動から能動システムに移行する監視カメラシステム

既存システムは検証のために記録を残すのですが、インテリジェントビデオシステムでは、映像を解析したうえで異常をカメラ側で検知し警報出すことができます。これによって、監視人員の低減が可能になり、大規模システムであればあるほど効果が大きくなります。機械がふるいにかけ、異常と判断した映像だけを人間が確認するので、ある程度人間の代わりができるようになります。



徳田支部長の近況紹介

- ③ 第三世代に入るアクセスコントロールシステム
ID カードがスマートになり、リーダーとの通信が暗号化されたり、カードの中に生体認証のためのテンプレートが保管されるようになります。同時に PC と出入管理コントローラーはネットワーク接続になります。また、多くのチャンネルを持つ出入管理コントローラーから、1、2チャンネルの小規模コントローラーが増えていきます。POE によってリーダーや電気錠などの末端機器がインテリジェント化し一体化していきます。これにより、壁を傷つけず、配線上も省線化が可能になって全体として価格が下がるようになります。
- ④ M&A
世界のセキュリティ業界では M&A が盛んに行

われ、またコングロマリット化しています。鍵関連アッサアブイグループ、カード・リーダー関連 HID、総合セキュリティ GE セキュリティ、シユナイダー(Pelco、APS)、ボッシュ、ハネウエル、UTCなどがその例です。

以上、住谷さんによるセミナーでした。

5 月は日本ダイスターエレクトロニック株式会社代表取締役の岩崎一哉さんに、RFID の技術動向・市場動向について話していただきます。

■ ASIS インターナショナル日本支部の月次セミナーへのお誘い

ASIS インターナショナル日本支部は、月次セミナーを開いています。産業セキュリティに興味がある方ならどなたでも参加できます。お申し込みはホームページから！

■ 開催日

毎月第三火曜日 午後 6 時半より

■ 場所

国際文化会館(六本木)

東京都港区六本木 5-11-16

TEL: 03-3470-4611

<http://www.i-house.or.jp/jp/ihj/access.html>

■ 参加費

2,000 円 (ASIS 会員・非会員同一料金)

このコーナーへのお問い合わせや入会お申込みは
ASIS インターナショナル日本支部 事務局まで

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-2-17
日本保安人事株式会社内
TEL 03-3255-3468 FAX 03-3258-7630
E-Mail info@asis-japan.org/
www.asis-japan.org